

都内の主なホテルの客室稼働率が底堅く推移している。日本経済新聞社がまとめた10月の都内主要18ホテルの稼働率は88%と前年同月比0・8ポイント下がったが、依然として高水準を保った。宿泊を伴う国際会議など「MICE（マイス）」やアジアからの個人旅行者の需要が伸び、稼働率を下支えた。

18ホテルのうち「パレスホテル東京」（千代田

ホテル稼働率 10月も高水準

区）や「帝国ホテル東京」（同区）など11ホテルの稼働率が前年を下回った。一方で7ホテルは稼働率が上がった。18ホテルのうち、ほぼ

都内の主なホテルの稼働率は底堅く推移している



都内88% 国際会議増え単価上昇

アジア訪日客も伸びる

満室で予約を取るのが難しいとされる8割を超えたのは17ホテルだった。10ホテルは9割を超えた。10月は宿泊を伴った国際会議などの需要が好調で、多くのホテルの単価が上がった。回答を得られなかった6ホテルを除く12ホテルのうち、10月の客室平均単価が上がったのは7ホテル、下がったのは5ホテルだった。9月は回答した12ホテルのうち単価が上がったのは6ホテルだった。10月は6ホテルだった。「パレスホテル東京」は客室単価が前年同月と比べて約12%伸びた。稼働率は2・5ポイント減少して88・1%だった。同ホテルは米国の大型のビジネス案件を受注。欧米の旅行者によるスイートルームの利用も増え、単価の上昇を後押しした。

「帝国ホテル東京」も客室単価が7%伸びた。稼働率は89%で、前年同月比でも0・3ポイント減と横ばい水準だった。